

自然を愛する心を育むビオトープ整備

青少年赤十字 (JRC) 加盟校・世田谷区立駒沢中学校

世田谷区立駒沢中学校は青少年赤十字 (JRC) 活動を行うJRC加盟校であり、ボランティア活動を行うJRC部には、100人以上の部員が在籍しています。JRC部が取り組むビオトープ整備について、教えていただきました。

お話を
聞いた方



JRC部 部長／
3年
田中 莉子さん



JRC部 顧問／
指導教諭／理科担当
内藤 理恵先生



ビオトープ整備の様子。オタマジャクシが大量に育っていたり、水草が増えたり、季節ごとの変化に気が付くのも楽しい

自然からの学びは無量大

駒沢中学校の敷地内には、緑豊かな天然の低山「タンチ山」があります。その山のふもとに8年ほど前に造られたのが、さまざまな動植物の生息空間となるビオトープ。豊かな植生が二酸化炭素を吸収し、生物多様性を保護する役割を果たすことから、気候変動緩和策の一つとして期待されています。

ビオトープ整備に取り組むJRC部部長の田中莉子さんは、「池の中にはオタマジャクシやヤゴ、池の周りにはトンボやチョウなどたくさんいます。街中では見掛けない生き物にたくさん会えて楽しいです」と話し、顧問の内藤理恵



校庭から眺めたタンチ山。地域の人が通れる遊歩道も設けられており、近所の保育園のお散歩コースになっているそう

先生は、「都会でこんなに自然が残る環境は貴重。大型の野鳥やタヌキを見掛けることもあります」と続けます。

季節ごとに行う整備の際は外部の指導者を招き、生き物の名前や生態についてレクチャーを受け、池の岸を補強したり、草取りをしたりします。「自然な姿を大切にしてお手入れすること、生き物にとって心地良い環境にすることを心掛けています」(内藤先生)。

整備に参加した生徒たちは自然観察の楽しさに目覚め、休み時間や放課後にもビオトープの様子を見に来ます。「周囲の樹木やコケに夢中になる子も。自然からの学びは、尽きることがありません」(同)。

地球環境とのつながりを体感

「この風景が大好き」と微笑む田中さん。「後輩にもずっと整備を続けてもらい、たくさんさんの生き物を守ってほしいです」と熱心に話し、内藤先生は「ビオトープの思い出が、自然を尊重する生き方につながってくれば」と期待を込めます。

また、同校では昨年から屋上にソーラーパネルを取り付け、太陽光発電を始めました。「天気が良ければ、校内で使う電気をほとんど太陽光でまかなえます。生徒も一緒に発電状況を見守ることで、自然の力を体感して欲しいですね」(内藤先生)。

自然の尊さや力を体感することは、気候変動対策への意識を深める機会になります。皆さんも積極的に自然に触れてみてはいかがでしょうか。

青少年赤十字 (JRC) とは

児童・生徒が日常生活の中での実践活動を通じて、地域や世界の人々の平和や人類の福祉に貢献できるよう、学校教育の中で展開する活動。